

Ⅲ 今月のトピックス

【豊作予想の米国産とうもろこし・大豆】

米国農務省が9月11日に発表した「WASDE（穀物等需給報告）」によれば、米国産とうもろこし、大豆ともに生産量が先月予測よりも上方修正され、とうもろこしでは単収が、大豆では生産量が過去最高となる見込みである。

表－1 米国のとうもろこし生産の推移

区分	1990/ 1991	1991/ 1992	1992/ 1993	1993/ 1994	1994/ 1995	1995/ 1996	1996/ 1997	1997/ 1998	1998/ 1999	1999/ 2000	2000/ 2001	2001/ 2002	2002/ 2003	2003/ 2004	2004/ 2005	2005/ 2006	2006/ 2007	2007/ 2008	2008/ 2009	2009/ 2010
収穫面積(1000 ha)	27,095	27,851	29,169	25,468	29,345	26,390	29,398	29,409	29,376	28,525	29,316	27,830	28,057	28,710	29,798	30,399	28,586	35,014	31,825	32,378
＼(1000エーカー)	66,952	68,820	72,077	62,931	72,511	65,210	72,642	72,670	72,588	70,485	72,440	68,768	69,329	70,942	73,631	75,116	70,636	86,520	78,640	80,006
1960～順位	30	27	16	35	13	32	11	10	12	24	14	28	25	22	7	5	23	1	3	2
単収 (MT/ha)	7.44	6.82	8.25	6.32	8.7	7.12	7.98	7.95	8.44	8.4	8.59	8.67	8.12	8.92	10.06	9.29	9.36	9.46	9.66	10.16
＼(ブッシェル/エーカー)	118.50	108.61	131.48	100.71	138.61	113.48	127.10	126.70	134.44	133.80	136.87	138.18	129.34	142.19	160.34	147.94	149.09	150.69	153.88	161.92
1960～順位	19	26	13	29	8	22	15	16	11	12	10	9	14	7	2	6	5	4	3	1
生産量(1000 MT)	201,534	189,868	240,719	160,986	255,295	187,970	234,518	233,864	247,882	239,549	251,854	241,377	227,767	256,229	299,876	282,263	267,503	331,177	307,386	329,059
＼(百万ブッシェル)	7,934	7,475	9,477	6,338	10,051	7,400	9,233	9,207	9,759	9,431	9,915	9,503	8,967	10,087	11,806	11,112	10,531	13,038	12,101	12,955
1960～順位	21	25	12	31	8	26	14	15	10	13	9	11	16	7	4	5	6	1	3	2

注：1ブッシェル=0.0254トン、1エーカー=0.40469ヘクタール
資料：米国農務省「PSD」(2009. 9.11)

(史上最高単収)

図－1 とうもろこしの生産量、及び単収の推移

1 米国のとうもろこし生産(2009/10年度)

中西部東域において低温で雨がちな天候が5月下旬まで続いたことから、当初2～3週間程度生育が遅れていたが、その後生育に適した天候で推移し、生育の遅れは10日前後となっている。このため、収穫前の早霜が懸念材料とされていたが、成熟期へ移行したことで懸念は和らいでいる。

作柄については、生育に適した天候で推移していることから、9月20日現在で優良～良が68%と、前年度の同時期(59%)、及び最終(64%)を上回っている。

コーンベルト地帯の殆どで高い単収が見込まれ、史上最高となるヘクタール当たり10.16トンを記録すると予測され、生産量も2007/08年度に次いで史上2番目の3億29百万トンに達すると見込まれている。

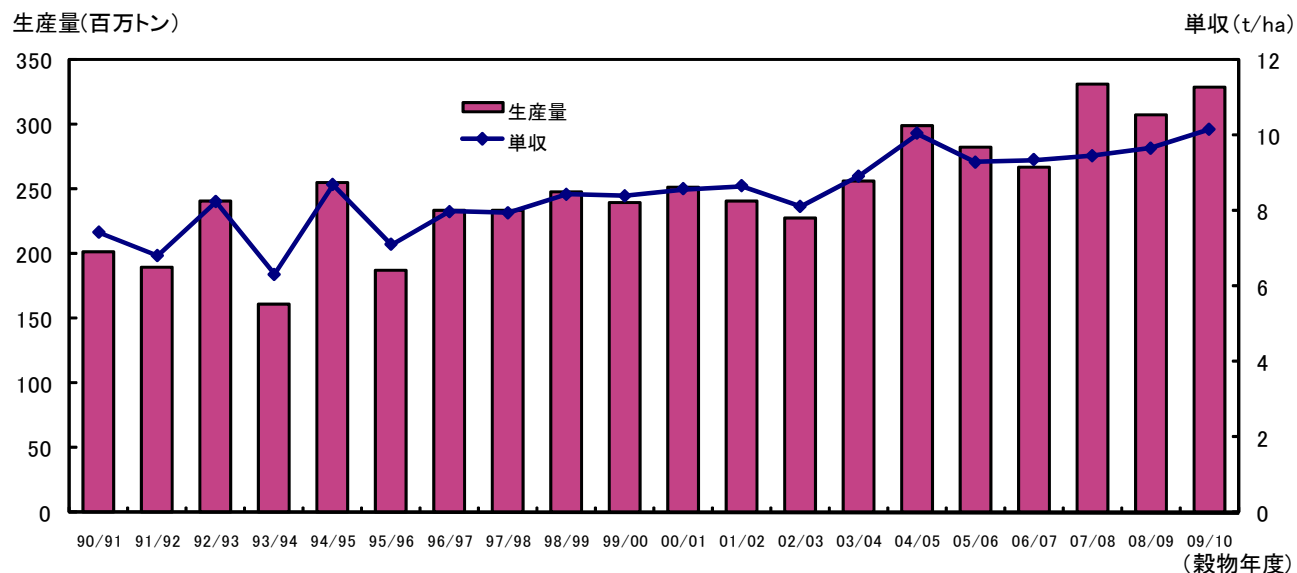


表-2 米国の大豆生産の推移

区分	1990/ 1991	1991/ 1992	1992/ 1993	1993/ 1994	1994/ 1995	1995/ 1996	1996/ 1997	1997/ 1998	1998/ 1999	1999/ 2000	2000/ 2001	2001/ 2002	2002/ 2003	2003/ 2004	2004/ 2005	2005/ 2006	2006/ 2007	2007/ 2008	2008/ 2009	2009/ 2010
収穫面積(1000 ha)	22,870	23,477	23,566	23,191	24,609	24,906	25,637	27,968	28,507	29,318	29,303	29,532	29,339	29,330	29,930	28,834	30,190	25,959	30,206	31,067
〃 (1000エーカー)	56,512	58,012	58,232	57,305	60,809	61,543	63,349	69,109	70,441	72,445	72,408	72,974	72,497	72,474	73,957	71,249	74,599	64,145	74,639	76,767
1960～順位	33	28	27	31	24	23	20	14	11	8	9	5	6	7	4	10	3	18	2	1
単収 (MT/ha)	2.29	2.30	2.53	2.19	2.78	2.38	2.53	2.62	2.62	2.46	2.56	2.66	2.56	2.28	2.84	2.90	2.88	2.81	2.67	2.84
〃 (ブッシェル/エーカー)	34.08	34.24	37.61	32.63	41.36	35.33	37.57	38.91	38.91	36.63	38.09	39.61	38.02	33.86	42.24	43.06	42.85	41.73	39.65	42.27
1960～順位	18	17	13	23	6	16	14	10	9	15	11	8	12	21	4	1	2	5	7	3
生産量 (1000 MT)	52,416	54,065	59,612	50,885	68,444	59,174	64,780	73,176	74,598	72,224	75,055	78,672	75,010	66,783	85,019	83,507	87,001	72,859	80,536	88,322
〃 (百万ブッシェル)	1,926	1,987	2,190	1,870	2,515	2,174	2,380	2,689	2,741	2,654	2,758	2,891	2,756	2,454	3,124	3,068	3,197	2,677	2,959	3,245
1960～順位	25	22	17	27	13	19	15	10	9	12	7	6	8	14	3	4	2	11	5	1

注 : 1ブッシェル=0.027216トン、1エーカー=0.40469ヘクタール

資料: 米国農務省「PSD」(2009. 9.11)

(史上最高生産量)

図-2 大豆の生産量、及び単収の推移

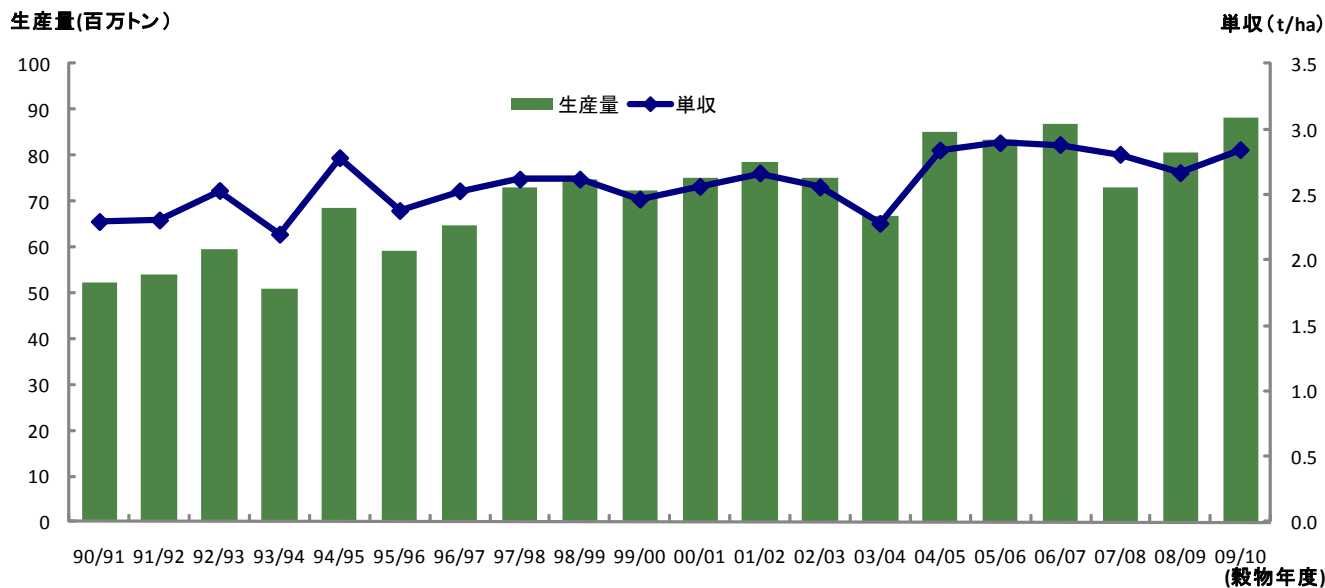
2 米国の大豆生産(2009/10年度)

当初、とうもろこしからの作付転換により昨年度拡大した大豆の作付けは今年度は伸び悩むであろうと予測されていた。しかしながら、需給のひっ迫見込みから農家の作付け意欲が増加したことから、作付面積は過去最高を記録し、収穫面積も同様に史上最高となる見込みである。

今年度の作付は、雨がちな天候の影響でコーンベルト東側の主産地であるイリノイ州等で遅れがみられたが、7月以降は生育に適した天候で推移しており、生育遅れによる収穫前の早霜の懸念があるものの、概ね良好である。

作柄については、生育に適した天候で推移していることから、優良～良までの合計は67%と、前年度同時期や前年度最終の57%を共に上回っている。

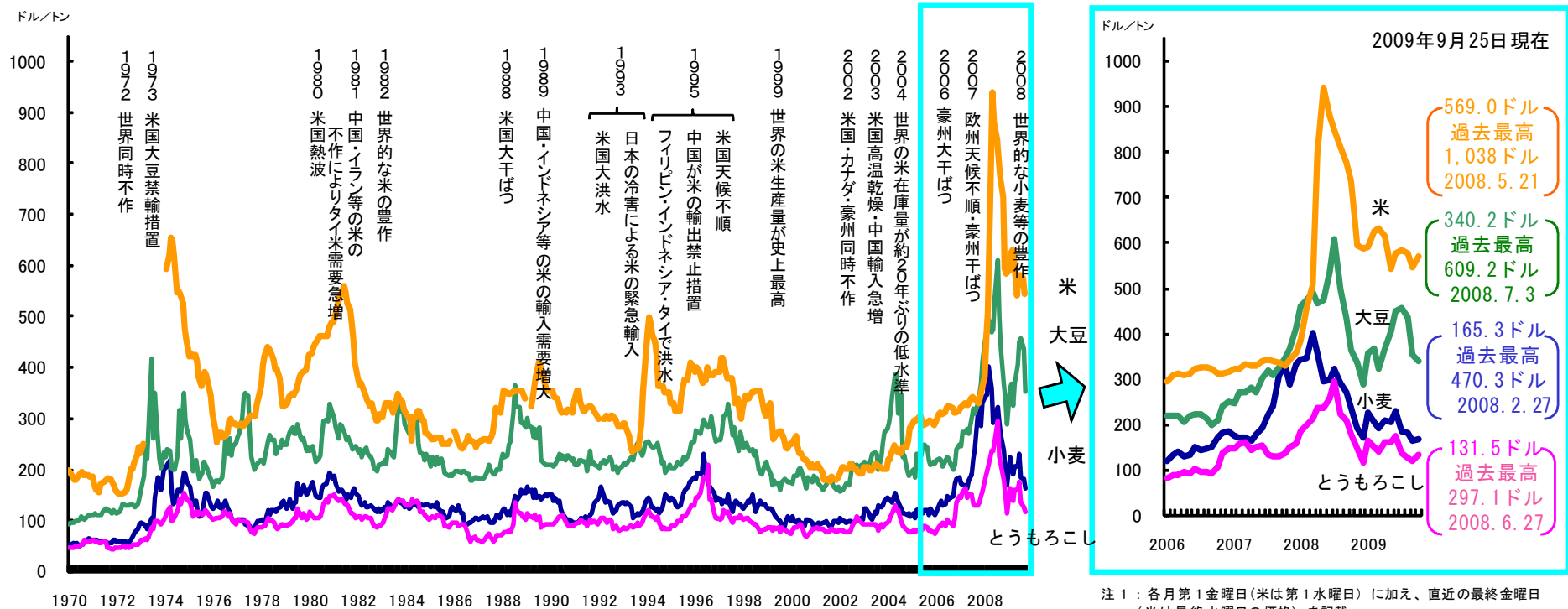
このため、単収は史上3番目となるヘクタール当たり2.84トンと見込まれ、収穫面積と相まって、生産量は史上最高の88百万トンに達すると見込まれている。



(参考) 世界の農産物価格の動向 (ドル/トン)

- 穀物等の国際価格は、2006年秋頃から上昇基調で推移し、2008年春から夏にかけて最高値を更新。その背景には、穀物市場への投機資金流入といった要因もあるが、基本的には、① 中国等の途上国の経済発展による食料需要の増大、② バイオ燃料による需要増大、③ 地球規模の気候変動の影響といった中長期的に継続する構造的な要因のほか、輸出国の輸出規制があった。特に米は、貿易量の割合が低いことから、価格変動幅が特に大きかった。2008年夏以降は、小麦等の豊作予測などに加え、世界金融危機による投機資金の流出、世界的な不況による穀物需要の減退懸念から最高値に比べ大幅に低下した。
- 2008年末以降、南米での干ばつ、米国の天候による作付けの遅れ、中国の旺盛な大豆の輸入需要等により、穀物価格は、再び上昇基調で推移。その後米国が良好な天候に恵まれていること等から値を下げているものの、現在でも2006年秋頃に比べ1.2~1.8倍の水準。

□ 主要農産物の国際価格の動向



1970 1972 1974 1976 1978 1980 1982 1984 1986 1988 1990 1992 1994 1996 1998 2000 2002 2004 2006 2008

注：小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。

米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注1：各月第1金曜日(米は第1水曜日)に加え、直近の最終金曜日(米は最終水曜日の価格)を記載。

注2：米以外の過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における最高価格